



第207号  
2024年7月15日  
発行  
東村山市民新聞社

# 鳴り物入りの東村山市の事業だが…

## 「アインPay」っていったい何？



巨額の税金を投入

円の税金がこの上乗せ分に使われたのだった。

現在、市が2022年にキャンペーンに巨額の税金を投入した。ペイペイを始め、民間事業者のキャッシュレス決済は数多くある

中で、市独自の「アインPay」事業を始めた理由は、市内事業者の支援だというのが、「アインPay」が使える登録事業者には、個人事業者や小規模事業者だけでなく、大型量販店なども含まれている。

また、キャンペーンのポイント額には上限がなかったため、一人で総額88万円をチャージし、26万4千円相当ものポイントが還元されていた事例まであることがわかった。また、3万円相当以上のポイント還元を受けた人が554人もいたこともわかった。

キャンペーンは予算がなくなり次第終了のため、一人当たりの還元ポイント額が多ければ多いほど、行き渡る額が減少する。

これまでの地域振興券などは、一人当たりの購入額の上限が決められていたため、一定の公平性が保たれていたが、この「アインPay」事業はポイント還元の上限がないため、早い者勝ちで多くの現金を使えば使うほど、限りなく還元を受けることができる仕組み。

これらの問題を指摘する声があっても、市長をはじめ行政側のキャンペーンの評価は、「大好評につき早期に終了した」「期待した効果を得られた」等と大成功を強調している。

**ICT弱者は  
また置き去りで…**

また、東村山市の、省エネ家電買い替えや自転車用ヘルメット購入補助事業などは、「アインPay」のポイントでの補助となることから、「アインPay」アプリを使っている人だけが行政サービスを受けられるという、他市に例を見ない、不公平極まりない補助事業となっている。このことに対する疑問に対し、市は「アインPay」の市民利用を促進させるための「政策誘導」と答えているが、税金を使った補助事業に、スマートフォンや特定のアプリがないと補助を

受けられないなど、考えられない。

また、3月の予算特別委員会では、朝木議員よりコロナ禍や物価高騰に苦しむ市民に向けた施策は何か質したところ、「アインPay」のみという驚きの市答弁があった。この事業はスマートフォンアプリを使いこなし、短期間で高額な現金をチャージできる人

がより多額の税金の還元を受けられるというシステム。スマートフォンでのアプリ使用が苦手な高齢者や障がい者、生活困窮者などは、完全に置き去りにされた施策だ。

巨額の税金を投入した「アインPay」事業、今後、いったいどんな「成果」が出るのか、しっかりと見極める必要がある。

### インサイド レポート

## 二元代表制とは程遠い東村山市議会

子安じゅん

東京都知事選も始まった6月議会最終日に、共産党・渡辺みのる議員から渡部市長への緊急質問をしたと動議が出され、自民・公明の議員以外の全議員13人が賛成し、緊急質問が行われました。

質問の内容は、都知事選に際して、当市の渡部市長が他市の市長と共に、小池都知事に出馬要請をした、というマスコミ報道について、事実関係を確認したいというもの。渡部市長が小池都知事へ都知事選への出馬要請をしたという報道については、多くの市民から「市長の行動としては不適切ではないか」という苦情や不快だという声寄せられており、それを受けての渡辺議員の質問要請でした。

しかし、動議が成立した後の議会運営委員会で、この緊急質

問に反対した自民・公明の議員たちは、「質問時間は1分だ」「都知事選の投票に影響を与えないこと」等、渡部市長を守りたいのが、質問を妨害するかのごとく大騒ぎ。結局、質問に3分欲しいという渡辺議員に対して、2分の質問時間しか与えられませんでした。

渡辺みのる議員の質問に対し、渡部市長は個人として支持表明しただけだとし、「多摩地域の市町村行政に対して手厚い支援を行っているだけだ」と、「私はこれまでも各種選挙では割と明確に指示を表明している。個人として行ったもので、市の職員を使うとか、税金を使った行為ではない」との答弁でした。

議員が当たり前の質問をするにも、大変な労力が必要なのが東村山市議会です。

# 子守じゅん VOICE

六月議会の一般質問では、子ども食堂について取り上げました。

東村山市は、子ども食堂に対する支援は一切行っておりません。子ども食堂の必要性について確認したところ、「子どもからお年寄りまで多様な世帯が交流する機会や、子どもの居場所づくりという役割がある」「食育にも通じ、孤食を防ぐことで健康に良い影響をもたらす」「食材の提供等を通じて地域の商店や農家と繋がり、地域共生社会の実現が期待される」等と想像以上に立派な答弁が返ってきて驚きました。これだけ有益性を認めておきながら、予算はゼロ。運営者から直接ヒアリングを行うこともなく社会福祉協議会から上がってくる報告で状況把握を済ませていくという状況です。

私の元には、公民館の料理教室の使用が認められずに民間の場所を使用し、昨今の物価高騰により金銭的負担が大きくなっているとの声が届いていました。市は把握していませんでした。子ども食堂に対する公民館の利用を求めたところ、制限はないことを確認しましたが、こんなことは市が運営者から直接ヒアリングしてればすぐに解決できたはずです。

## 子守じゅんプロフィール

▼1983年大阪府豊能郡能勢町生まれ。能勢町立歌垣小・能勢東中・府立池田高・創形美術学校卒業  
▼学校職員・会社勤務・新聞編集員  
▼政治と宗教問題への関心から、矢野ほづみ議員の遺志を継ぎ、政教分離実現のために闘うことを決意。東村山市民新聞編集員・地元FM局スタッフ・高齢者団体役員  
▼2023年4月の選挙で初当選・現在一期目の市議会議員



X(旧Twitter)でも情報発信中!



子守じゅん HP



ここまで有効性を認めているならば本来は市の直営で運営すべき。運営状況の把握すら杜撰で不正確。アインパル事業に巨額の予算が使われる一方で、ボランティア団体が歯を食いしばって子ども食堂を運営している様子は納得できません。

## お知らせ

# 政治と宗教を考えるシンポジウム

### ●シンポジスト

佐高 信 氏(ジャーナリスト)  
乙骨正生 氏(ジャーナリスト)

### ●日時

10月14日(月・祝)  
14:00~

### ●場所

サンパルネコンベンションホール(東村山駅西口)

### ●主催

政治と宗教を考える会

お問い合わせは本紙まで。  
(上記欄外、電話・メール)

# 朝木直子 VOICE

## 「東村山の闇」復刻版発売

1995年9月1日に発生した、朝木明代(私の母)市議の殺害事件について、2003年に第二書館から発行された「東村山の闇」(矢野穂積・朝木直子共著)は、絶版となっておりましたが、今回、電子書籍版とペーパーバック版(紙本)で、Amazonで販売開始されました。

母・朝木明代は、私が幼少のころから高齢者や障がい者団体のボランティア活動をしていましたが、その活動の中で、政治を変える必要性を感じて市議となり、弱者救済活動を続けておりました。そんな中で、創価学会による凄まじい人権侵害を受けている創価学会脱会者の相談にのったことから、当時は恐れて誰も関わらなかつた創価学会問題に取り組み、その活動がマスコミに取り上げられるなど、全国的に知られるようになりました。

そして、高知県で創価学会問題のシンポジウムにパネリストとして出席するために出かける前日に、東村山駅前のビルから転落して亡くなりました。

シンポジウムのレジュメをウェブ上に打ちかけのまま忽然と姿を消していること、転落の際に悲鳴を上げていくこと、靴を履いていないこと、この靴は未だに見つかっていないこと、等、不審な点が数多くあるにも関わらず、検察は「事件性はない」として事件を処理しましたが、この事件の捜査担当検事 担当を決めた当時の東京地

検八王子支部長検事は共に創価学会の幹部信者でした。結局、司法解剖は行ったものの、解剖鑑定書は作成され

ることはなく、母の両腕の内側に皮下出血(通常、法医学では争った跡とされる)があったことは、ずっと隠ぺいされてきました。

また、当時、母が「万引き未遂事件」

の容疑で書類送検されたことで、それを苦にして自殺をしたかのような情報を当時の東村山署の副署長がマスコミ等に流しましたが、この「万引き未遂事件」で母が犯人だとしている根拠は、「目撃者」のみでした。(現行犯でもなく、客観的証拠は何も無し)。母は、この事件について、「真相究明のため、徹底的に闘う」という決意を記した署中見舞いを、支援者や知人に出していたように、私にも、何年か経っても、絶対に真相を究明して見せる。こんな人権侵害は許されな

い。と言って怒りに震えていました。そんな状況下での転落死でした。

2003年時点で、多くの裁判や関係者の証言など、当時、母の同僚職員であった矢野穂積議員と、娘である私との共著で、この事件を風化させないために執筆した書籍です。

2003年以降も、この当時の東村山署の副署長は退職後に、私たち遺族や関係者に裁判を起こしたり、東村山市民議会に創価学会関係のライターと共に現れて嫌がらせをするなど、考えられない状況が続きました。



『東村山の闇——「女性市議 転落死事件」8年目の真実』

Amazonの販売サイト



また、事件の担当検事だった、創価信者の検事は事件から一年後に、私の住む諏訪町に、山梨から住所を移し、30年近く、私のすぐ近くに住んでいたことに驚愕しました。

X(旧Twitter)でも情報発信中!



朝木直子 HP



## 朝木直子プロフィール

▼1967年東村山市民議訪町生まれ/化成小・二中・都立武蔵高・慶應大卒  
▼母・明代議員の殺害事件後、遺志を継ぎ、弱者の生活を守り、税の使途、行政腐敗を監視するために闘うことを決意。謀殺事件究明に28年  
▼憲法学習会広渡塾一期生・東村山市民新聞代表・現職市議会議員(7期目)/社会福祉法人理事/政治と宗教を考える会主催/地元FM局スタッフ/親の家委託費問題を追及し予算を撤回させる。これまでに、期末手当2割増分など、議員報酬から606万4410円を返上。

